

## 研究所日記

## 平成22年度 食品検査新任職員専門研修会

4月21日から23日の3日間、新たに食品検査業務に携わる保健福祉事務所検査課職員及び研究所職員を対象に、食品添加物検査（着色料・保存料）の研修を行いました。

しばらく検査業務から離れていた人、4月に採用になったばかりの人もいるため、器具や試薬の取り扱い、データの評価など、どのような分析にも共通する基礎を中心に実習しました。

標準溶液はどのような器具を使って調製するの？「エタノール：水＝50：50」と「エタノール50mLとって水で100mLとする」の操作の違いは？「精密に量る」と「正確に量る」の違いは？廃液はどうするの？「この試薬は劇物だから帳簿をつけて鍵のかかる保管庫にしまって」などなど…

この研修を終えると彼らは職場の同僚と一緒に食品検査を行い、食の安全を守る一員として活躍していきます。

「確実に迅速な検査」をモットーに  
「初心忘れるべからず」です。

(土屋としみ kanken-shokuhin@pref.nagano.lg.jp)



研修の様子

## 温暖化調査はじめました！

今年は4月中旬になっても研究所飯綱庁舎では積雪が観測されるなど寒い日が続いています。鳥たちの生活にも少なからず影響がでているように思います。当研究所では、これまで温暖化による生物への影響をモニタリングするためのプロジェクトをおこなってきましたが、県の重要政策として今年度からはじまった「信州クールアース推進調査・研究事業」の一つとして「地球温暖化による自然環境への影響把握のためのモニタリング調査」をスタートさせました。



ライチョウの雌(白馬乗鞍岳)

鳥については、ICレコーダーを使って、県内十数カ所で夏鳥の渡来時期を調べることを始めました(写真)。ウグイスやオオルリなど鳴禽類(めいきんるい)と呼ばれる小鳥たちの雄は、子育ての時期になるとすばらしい歌声で私たちを楽しませてくれます。そのような鳥たちのさえずりを自動録音し、県内のどんなところではいつ頃彼らがやってくるのか、年によって早いのかおそいのかなどを調べるものです。研究所の敷地では、毎年ウグイスが春になるとやってきます。去年は4月5日、今年度は4月6日でした。このようなことを蓄積することで、温暖化との関係をみていきたいと思っています。その他にも、南アルプス南部のライチョウへの影響や研究所飯綱庁舎の敷地で小鳥類の営巣調査も実施していきます。結果がでましたら、HP等で随時公表していきます。



ICレコーダー

(堀田昌伸 kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp)